

作成日 2008年3月3日
改定日 2010年12月30日
改定日 2011年7月5日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 サーフランSC
会社名 保土UPL株式会社
住所 〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目14番5号
担当部門 営業部
電話番号 03-6225-3194 FAX番号 03-6225-3197
緊急連絡先 保土谷UPL株式会社 営業部
電話番号 03-6225-3194
整理番号 0103

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分3
	眼損傷／眼刺激性	区分2B
	皮膚感作性	区分1
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2

*記載がないものは、分類対象外または分類できない

GHSラベル要素：

絵表示



注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 軽度の皮膚刺激
眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生生物に毒性

注意書き：

- [予防策] 取扱い後はよく手を洗うこと。
 保護手袋を着用すること。
 粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること
- [対応] 皮膚についた場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診断／手当てを受けること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。
- [廃棄] 内容物・容器は自治体の規則に従って廃棄すること。

2. 組成、成分情報

3.

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分情報：

化学名または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度 (%)
オリザリン (3,5-ジニトロ-N4,N4-ジプロピル スルファニルアミド)	19044-88-3	—	40.0
グリセリン	56-81-5	化審法 2-242	4.0
プロピレングリコール	57-55-6	化審法／安衛法 2-234	6.0
水			40.0
乳化剤等			10.0

分子式： オリザリン $C_{12}H_{18}N_4O_6S$ 、グリセリン $C_3H_8O_3$ 、
 プロピレングリコール $C_3H_8O_2$

4. 応急措置

- 吸入した場合： 新鮮な空気の場所に移し、保温安静に務める。呼吸が停止している場合は、救急連絡した後に人工呼吸または酸素吸入を行い、その後、速やかに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 汚染した衣類などを脱がせる。直ちに石鹼を用い大量の水で少なくとも 15 分間洗い流す。皮膚刺激が続く場合には、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合： まぶたを開いて、水を用いゆっくりと丁寧に 15～20 分間洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合には、5 分後に取り外してさらに洗浄を続ける。速やかに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに口をすすぎ、医師の診断を受ける。意識がない場合には、

口から何も与えてはならない。医師の指示がない限り吐き出させてはならない。

医師への注意事項： 対症療法を行うこと(オリザリンには、解毒剤は知られていない)。

5. 火災時の措置

消火剤： 周辺状況に応じて、適切な消火剤（粉末消火剤、泡消火剤、散水、二酸化炭素など）を用いる。

特有の消火方法： 密封された容器が火災に曝される恐れがある場合には、散水して冷却する。危険でなければ、火災区域から本製品を移動する。

特定の危険有害性： 通常の火災状態では、本製品が危険有害性を生ずることは考えられないが、大量の水が蒸発するような状況下では、含有されているプロピレングリコール及びオリザリンが乾燥して可燃性を示すことがある（自己発火点：>93℃）。
また、特殊な場合にはオリザリンのダストの爆発性が問題となることも考えられる（ダストについての最低着火温度：379℃）。

消火を行う者の保護： 適切な保護具または耐火服を着用する。場合により、自給式呼吸を着用すること。

有害な燃焼生成物： 窒素酸化物

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚及び衣類への接触を避ける。風下で回収作業をしてはならない。

環境に対する注意事項： 土壌に浸透させてはならず、下水、河川、排水などに流してはならない。

除去方法： 不活性の吸収材（砂、シリカゲル、酸結合剤、汎用結合剤、おがくず）に吸収させる。シャベル等を用いて集め、適切な廃棄用容器に入れる（廃棄の際には、関連法規及び地方自治体の基準に従うこと）。

7. 取扱い及び保管

取扱い： 子供を近寄らせないこと。この製品を取り扱う際には、適切な保護具を着用し飲食及び喫煙をしないこと。取扱った後には、肌の露出部を良く水洗すること。稀に可能性があるダストの発生に注意すること。

保管： 本製品の元の容器に入れたまま保管し、密閉状態を確認する。乾燥した換気の良い場所に保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度及び許容濃度：	グリセリン ACGIH TLV：10 mg/m ³ OSHA PEL：呼吸可能画分：5 mg/m ³ 総ダスト：10 mg/m ³
設備対策：	局所排気及び洗眼設備を備えること。
保護具：	保護衣、保護手袋及び保護眼鏡などを着用すること。
衛生対策：	取扱い後は、良く手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観等：	不透明のオレンジ色液体
臭い：	僅かな芳香臭
比重：	1.138～1.239 (25℃)
蒸気密度：	1.178 (25℃、対空気)
蒸気圧：	約 23 mmHg (25℃)
pH：	約 5.9
溶解性：	水と混和

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常取り扱い条件下では、安定である。オリザリンが浮遊粉塵となるような極めて特殊な場合には、爆発性を示すことも考えられる。
腐食性：	知られていない。
反応性：	データなし
混合禁忌物質：	本製品は農薬であるから、農薬として使用する際に、製品そのものを他の物質と予め混合することは認められていない

11. 有害性情報

<u>オリザリン</u> ：	
● 急性毒性	ラット経口 LD ₅₀ ： >5,000 mg/kg マウス経口 LD ₅₀ ： >5,000 mg/kg ウズラ経口 LD ₅₀ ： >500 mg/kg ウサギ経皮 LD ₅₀ ： >5,000 mg/kg
● 皮膚刺激性	軽微な刺激性 (ウサギ)
● 眼刺激性	軽度の刺激性 (ウサギ)
● 皮膚感作性	陽性 (モルモット、Buehler 法) 陰性 (モルモット、Maximization 法)
● 変異原性	陽性 (枯草菌を用いた復帰変異性試験) 陰性 (in vitro/動物細胞を用いた変異原性試験)

- 発がん性 情報なし

プロピレングリコール：

- 急性毒性 ラット経口 LD₅₀： 21,000 mg/kg
ウサギ経皮 LD₅₀： 20,800 mg/kg
- 皮膚刺激性 軽度（ヒトへの反復による接触）
- その他の毒性 ヒト及び多種類の動物に対する長期または反復毒性は、繁殖性に対する影響を含めて、毒性は極めて小さいことが知られている。

グリセリン：

- 急性毒性 ラット経口 LD₅₀： 12,600～27,200 mg/kg
ウサギ経皮 LD₅₀： >10,000 mg/kg
ラット吸入 LC₅₀： >0.57 mg/L（1時間）
- 皮膚刺激性 軽微
- 眼刺激性 軽微
- その他の毒性 ヒト及び多種類の動物に対する長期または反復毒性は、極めて小さいことが知られている。

- ・追加情報： 長期間の皮膚への接触は、局所的な紅斑を起こす恐れがある。呼吸器官に刺激性を発現する恐れもあるので、ミスト等を吸入しないように注意すること。極めて長期間の暴露は、肝臓または甲状腺に悪影響を起こす恐れがある。
プロピレングリコールによる症状としては、中枢神経系の機能低下、頭痛、めまい、催眠及び筋肉の協調運動の失調が知られている。

1 2. 環境影響情報

オリザリン：

- 生物濃縮性 Log Pow： 3.72
- 分解性 土壌中における半減期は、数日～数週間である。
- 生態毒性 魚毒性：コイ LC₅₀：>1,000 mg/L
ミジンコ類遊泳阻害：オオミジンコ EC₅₀：>3.3 mg/L
藻類生長阻害：淡水藻類 E_rC₅₀：0.28 mg/L（0～72時間）

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物： 本剤は農薬であるから、農薬として関連法規制及び地方自治体の基準に従うこと。水生環境中には廃棄してはならない。
- 汚染容器： 空容器を廃棄する場合には内容物を完全に除去し、関連法規制及び地方自治体の基準に従って、適切に処分すること。

14. 輸送上の注意

国際規制： 国連分類の危険物には該当せず
国内規制： 該当せず
特別の安全対策： 食品や飼料と混載してはならない。輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、漏れ等がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

15. 適用法令

農薬取締法： 登録番号[第22095号]
消防法： 第5類第2種
米国EPA登録番号： 70506-43（オリザリン含有製剤）

16. その他の情報

参考文献

- 1) 自社データ
- 2) 他社MSDSデータ

記載内容は、現時点で当社が入手した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。

又、注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

中毒の緊急問い合わせ先： 財団法人 日本中毒情報センター

中毒110番	一般市民専用電話 (通話料のみ相談者負担)	医療機関専用有料電話 (一件につき2,000円)
大阪(365日、24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば(365日、9時~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999